

すごろくで魅力知って

鳥海山・飛鳥ジオパーク

秋田、山形両県にまたがる鳥海山・飛鳥ジオパークの魅力を知ってもらおうと、由利本荘市の矢島高校の3年生が、親子で楽しみな

がらジオパークについて学べるすごろくを制作した。同市にかほ市の小学1年生約600人に配布する。

すごろくは計121マスで、由利本荘、にかほ両市のおおよその位置関係を再現した。ジオパークを構成する各スポットに関連し、「300段の階段を上って疲れちゃった…。1回休み」(由利本荘、森千大物忌神社)、「『あがりこ大王』を見つけパワーをもらった。サイコロをもう1回振る」(にかほ、中島台・獅子ヶ鼻温泉)などのマスを設けた。

由利本荘 矢島高3年生が制作



先月下旬にすごろくが完成。藤原幸花さん(18)は「完成品を見て、達成感が湧いてきた。すごろくを通して地元の人がジオパークに興味を持ち、実際に各スポットに足を運んでくれたらうれしい」と話す。

矢島高校は2015年度から、地域のブランド力を高める「やしまブランドディングプロジェクト」を授業内で実施。これまで地元の食材を生かした特産品作りや、地域学習に使える絵



本、塗り絵の作製などを行ってきた。

21年度は矢島、由利、鳥海地域の住民に、ジオパークの認知度を問うアンケートを実施。30代以下の認知度が低いことが分かったため、小学生とその親をターゲットにしたすごろくを制作した。22年度は、山形県側のスポットを加えたすごろくの制作を検討している。

完成したすごろくを手にする矢島高の生徒(写真はいずれも同校提供)

鳥海山・飛鳥ジオパークは由利本荘、にかほ両市と山形県の遊佐町、酒田市の4自治体にまたがり、法体の滝(由利本荘)や九十九島(にかほ)などの計70カ所のスポットがある。16年にジオパークに認定された。

デザインの原案から生徒が手掛けた
(進藤麻斗)